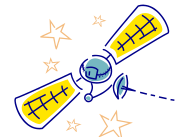


成瀬が丘 防災つうしん



No. 7

平成29年8月5日
成瀬が丘自治会自主防災部



災害時の行動マニュアル

5月に開催した今年度の「自主防災部全体会議」で、昨年からリーダー会議で検討してきた「災害時の行動マニュアル」（別紙）について、区長及び班長さんに説明しました。災害発生時の行動について皆で認識を共有するため、今号ではその内容を説明・解説します。

まずは「災害時の行動マニュアル」をご覧ください。

右上にあるように、災害（震度5強以上の地震）が発生した場合に、自治会館に「防災本部」を立ち上げます。

表の左側が地震発生時点、その後3分後・30分後とありますが、各々について解説します。

●地震発生時 まずは自分の身が大事

強い揺れで家具類が倒れて下敷きになったり、窓ガラスの破片などの落下物が頭を直撃すると、負傷したり命を落とす場合もあります。周りの様子を見ながら、すぐに物が「落ちてこない・倒れてこない・移動しない」場所に移動する。

自分自身と家族の命を最優先で守ることを考えて行動します。

●地震への備えであなたの運命が決まる

30年以内に70%の確率で発生すると予測されている首都直下地震、あなたはその備えができていますか。まずは耐震診断を受けましょう。その結果次第で耐震補強工事が必要になります。諸事情で全体の補強工事が出来ない時は、一部屋だけの耐震補強も有効な手段です。一方、耐震工事を実行する・しないに関わらず、洋服ダンスや本棚・食器棚等の家具の固定や日常的に屋内の避難通路を確保しておくこと、また寝室を2階に移す等の対策は、大切なことです。巨大地震の第一撃による圧死を防ぐには建物の耐震化が非常に重要です。阪神・淡路大震災の死者の8割が建物倒壊による圧死です。今から35年以上前の1981年（昭和56年）5月の建築基準法施工令改正以前に建築された建物は、大地震への安全性が低いとされています。耐震化チェックのために、耐震診断を受けましょう。

●3分後 火の始末と家族の安全確認

震災時の火災に関しては消防車が早期に来られないことを想定すると、いかに火を出さないこと、また、初期消火が大切であることは明らかです。火災を自分の家から出さないことはもちろん、向こう三軒両隣から火を出させないことが肝心です。

震災時（出火時）に気兼ねなく声を掛け合って、お互いを確認しあえる近隣関係の構築は非常に重要です。その為には先日行った（今後も行う）スタンドパイプによる消火訓練等の自治会活動への参加や、班会での話し合いによる相互理解が、万が一の時の安心感につながります。

●30分後 周囲の被害状況を把握して、火災が発生している場合は消火活動を行う

負傷者がいる場合は、救出活動を行う。地震の発生時、家の中から慌てて飛び出すと、落下物にあたって負傷する危険があります、まずは落ち着いて家の中の安全を確認しましょう。

家族の安否と家の内外の安全が確認出来たら、隣人・近隣の状況に目を向けましょう。

周辺で危険な物・建物がないか、火災が発生していないか、閉じ込められたり、下敷きになっ

たり、負傷した人などがいないかを確認しましょう。いざという時は助け合う事が重要です。大災害の発生直後は行政機関の助けは期待できず、住民同士の助け合い、特に近所（班）の助け合いが最も重要となります。

明日大地震が起きてもおかしくないと言われています、班会を開いて大地震が起きた時の対応について話し合いましょう。いざというときっと役に立つと思います。

次に表の右側の **一般会員・班長・区長・本部長～本部役員** までの各欄について説明します。

●一般会員

一時集合場所が班長宅前となっていますが、班会等により班員の合意で駐車場の前とか空き地の前とか、より安全な場所に変更してください。一時集合することで容易に班員の無事を確認することができます、また班内で無事確認の方法を別途取り決めていただいてもかまいません。大地震の直後各自の判断で「避難施設」に向かいますが、「避難施設」は一般的に居心地が良いとは言えません、自宅で居住の継続ができる状況であれば在宅避難をしましょう。避難所では、環境の変化などによって体調を崩す人もいます。事前に住宅の耐震化を行い、食料や水など必要な物を日頃から備え、可能な限り在宅避難が出来る準備を整えておくことが大切です。「支援可能者」とは欄外下部に書いてある通りです。支援可能者を班会を通じて決められれば、班員の安心につながります。

●班長

班内の情報とは、まず、火災が起きているとか、建物や塀等の下敷きになっているとか班員の生命に係る事態が発生しているというような状況です。それらを区長に連絡してください。班長さんは各自がそれぞれ消火班・救出救護班・避難誘導班・情報班・給食給水班のいずれかに属しています、自分自身、家族、班内の安全が確認出来たら本部（自治会館）に集合してください。大災害が起きた時、混乱が少しでも小さくなるよう、日頃から班会等で防災に対する意思の疎通を図っておくことは、安全・安心な成瀬が丘の第一歩です。

●区長

区長は大災害が起きた時、班長の報告を待つだけでなく、できるだけ区内（班長宅）を廻って現状を確認して本部（自治会館）に報告してください。その際、区の防災リーダー、自治会役員と出来るだけ協力して行動してください。区長は日頃から、班長、防災リーダー、自治会役員等と、防災についてのコミュニケーションを取っておいてください。

●本部長 ～ 防災リーダー・サブリーダー

上記メンバーは大災害が起きた時、自分の家族や近隣の安全（特に火災）を確認して、できる限り早く自治会館に集合して本部を立ち上げ、外部との連絡や自治会内の現状把握に努めます。避難者が発生するような時は、一時避難場所（小川高校校庭）に行って、避難した自治会員の人数・氏名等を確認し、避難施設（小川高校）の開設に協力します。

●消火班 ～ 給食給水班

各班のメンバーは、自治会館に集合したら全て各班のリーダーの指示に従ってください。大災害発生時は、基本的に時間の経過に連れて全員が最初は消火班、救出救護班、避難誘導班、最後は給食給水班となると思われます。

●本部役員

自分の班の班長や自分の区の区長の応援をするのが基本ですが、状況を見て必要な活動を行ってください。

以上